

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473300398
法人名	株式会社コスモス
事業所名	コスモス長津田
訪問調査日	平成24年11月19日
評価確定日	平成25年3月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300398	事業の開始年月日	平成14年7月1日	
		指定年月日	平成20年7月1日更新	
法人名	株式会社コスモス			
事業所名	コスモス長津田			
所在地	(226-0018) 横浜市緑区長津田みなみ台1-6-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成24年3月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生活をして、利用者様個々の能力に応じて日常的な機能訓練を行いながら、可能な限り自立した安心と尊厳のある生活が営めるよう支援しています。また、地域の方々と馴染みの関係を作り、地域資源を活用すると共に地域へ貢献できるような施設を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年11月19日	評価機関 評価決定日	平成25年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営は株式会社コスモスである。コスモスはH14年7月にコスモス長津田、H16年5月にコスモス櫛の2つのグループホームを開設し、H22年10月に高齢者専用賃貸住宅コスモス中山を開設した。さらに今年11月4日に認知症対応型のデイサービス楓を開設した。コスモス長津田は株式会社コスモスが始めて手がけたホームであり、コスモスのケアの原点となっている。地理的には、JR長津田駅から徒歩約10分、国道246号線を超えた道路沿いにある。近隣は、最近5～6年前位いから大型のショッピングセンター（アピタなど）、薬局・ファミリーレストランなどが連立し、便利な地域に発展しつつある。1戸建ての住宅やマンションも大幅に増え、近隣の小学校は1200人を超すマンモス校となり、若い人口の多い地域と旧来の住人が混在する発展途上の街である。このホームは鉄筋2階建てで、1・2階に居室があり、階段、他に手すりが適宜設置され、エレベーターも設置されている。

②理念は、「利用者の立場に立ったサービス」「地域との交流を大切にしていく」「自立支援」である。ケアの方針としてはやりすぎないケアを心がけている。自分で出来ることは、極力自分で行って頂くよう自立支援を心がけている。高齢者が減入の原因の最大のものはやることが無い→やる気が無くなることである。自立支援を続けると仕事をさせて欲しい気持ち生まれ、活力に繋がると考え進めている。食事も噛む力が大切と考え、極力普通食で対応するよう取り組んでいる。職員は新しい人が多いので、認知症の理解に基づくケアの充実に取り組み、居室担当、センター方式の活用、レクの充実の向上に取り組んでいる。

③地域との交流については、自治会にホームとして加入し、年次総会には必ず出席するようにしている。また、ご近所との交流については設立後10年の歳月が近所づきあいを深め、ホームの催事に参加して頂く他、災害時の協力もお願いできるようにまでなった。近所のミニフェスティバル（作品展）などにも参加している。近くの玄海田公園にはバーベキューの設備が作られ、夏の行事に積極的に利用している。家族会も年1～2回程度、催事と併せて実施しているが、日頃より家族の方の来訪は多くあり、入居者のご様子を話したり、ご意見を伺ってケアの向上に役立てている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	コスモス長津田
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に留まることなく「地域との交流を大切にしていく」理念を共有し実践してきている	理念は、「利用者の立場に立ったサービス」「地域との交流を大切にしていく」「自立支援」である。玄関に掲げ、職員は業務マニュアルに添付し、ケアにあたっている。ホームの基本を自立支援に置き、介護について「やりすぎない」ようにしている。また、支援についての考え方も「介護してあげる」ではなく「一緒に生活する」ことに重点を置き推進すると共に、地域にどんな貢献ができるかを考えて進めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や夏祭りなどへの参加を通して地域の方々との交流を図るとともに生活の活性化を行っている	自治会に施設として加入し、年次総会にも出席するようにしている。利用者の方と共に月2回の老人会の清掃へ参加の他、どんど焼、お祭り、盆踊り、防災訓練、ミニフェスティバル（作品展）などに参加している。地元小学校の生徒が敬老の日に訪問頂いたり、中学生の職場体験を受け入れている。地域の方々との交流を図ると共に生活の活性化を図っている。また、管理者はキャラバンメイト活動による地域の認知症に対する啓蒙に取り組んでいる。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	戸外活動を行う中で元気なお年寄りとの会話が弾むように話しやすい雰囲気を作っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、地域の方々や利用者本人、ご家族、民生委員などに対し現況報告を行い、意見や提案をサービス向上に活かすように努めている	運営推進会議は2ヶ月に一度（偶数月の第2土曜日）、元老人会の会長、地域代表（お隣の方）、民生委員、地域包括センターの職員、ご家族のメンバーで開催している。議題は、ホームの現況報告やゴミの分別、若年性認知症の利用者のケア等のご意見を頂きながら事業所のサービスの向上に活かすよう努めている。また、近隣でも高齢化、独居等の問題があり、民生委員の方も課題とし、対策に取り組まれている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に対し適宜現況報告や相談をして協力関係を築けるように努めている	区の担当者に、適宜現況報告や相談をしており、また意見交換会にも出席し協力関係を築いている。横浜市グループホーム連絡会に加入し、管理者は幹事をしているので情報交換・相談など良い関係作りをしている。管理者は、キャラバンメイトの資格を持っており、地域包括と協力しながら認知症の啓蒙に努めている。生活保護の方の受け入れをしているので、区の生保担当との連携も密である。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」をスタッフ全員で共有し、「禁止の対象となる具体的な行為」を理解しケアにあたっている	「身体拘束をしない」ということを毎月の勉強会などでスタッフ全員が共有し、「禁止の対象となる具体的な行為」を理解してケアにあたっている。玄関の施錠は、昼間はしておらず、閉塞感を感じさせないように努めている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安心した暮らしを大切にしていくために利用者一人ひとりへの誠意ある声かけを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料、新聞記事など常に興味を持って接するよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	権利擁護に関する資料、新聞記事など常に興味を持って接するよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、できるだけ利用者ともども話し合う機会を持ち、ケアに役立つヒントを得たりしてケアの向上に努めている	家族の来訪時に、できるだけ利用者、ご家族と話し合う機会を設け、ケアの向上に役立っている。家族会は、1年に1回クリスマスのイベントに合わせて行っているが、バーベキューなどの各行事の他、日頃より家族の来訪は多く、その都度、利用者の様子などを話す機会がある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の施設会議で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている	管理者は、月に1回の施設会議にて職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。面接は、年1回、社長・管理者と職員との面談を行い、日頃思っていることや意見等を話す機会を設け、運営に反映させている。キャリアパスについては、資格取得をサポートすると共に、資格に応じた対応も行っている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが、やりがいや向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受けたり、OJTを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会などを通じて他の施設と交流を図るよう努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活への不安感をなくし、生活を楽しくしていただけるように笑顔で接し、声かけを密にしながら信頼関係の構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が望んでいる事柄が常にスタッフに届けられるように積極的に話しかけ、安心感を持っていただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの暮らしの理解に努め、まずは安心して過ごすことができるように本人、家族との話し合いを深めてきている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる力を発揮していただけるように常に「一緒に行きましょう」「一緒に楽しみましょう」と心がけ、スタッフとの一体感をつくり出してきている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者との生活の中で得た家族への思いを家族に伝え、家族との絆を強めながら安心感を持って暮らせるように働きかけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの関係を大切に不安を抱くことなく、利用者の友人が来られた時は、歓迎できる雰囲気作りに努め「また訪れたい」と思われる場作りを行っている	家族が知り合いを連れて来たり、コスモス中山からの入所者には、中山の友達が見えたりされる。利用者の友人が来られた時は、歓迎できる雰囲気作りに努め「また訪れたい」と思われる場作りを行っている。また、今までの美容院へ行く方なども支援し、これまでの馴染みの関係を大切に、不安を抱くことないようにしている。部屋には、電話を引くことが出来、家族や友人と連絡している方もいる。皆、ここが自分の家となっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつや食後のひと時など、できるだけ共に楽しむ場作りを行い、会話やゲームを通してお互いを知る機会を増やしてきている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であってもご家族から相談事などがあれば誠意ある対応をしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中での行動、日ごろの会話の中で一人ひとりの思いを汲み取りながらケアプランの作成にあたっている。まずは「その人のそばに寄り添う」ことを大切にしている	居室担当が居て、毎日の生活の行動・会話の中で、一人ひとりの思いを汲み取り、ケース記録、フェースシート、センター方式C-1-2記録に記入、毎週1回ケアカンファレンスを開きケアプランに反映するようにしている。背景、状況で内容が異なる場合もあるので、感想を書く場合には再度確かめるケースもある。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「センター方式」の活用により、十分なアセスメントができるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に過ごすことによって多くのことを知り、スタッフとの情報を共有しながら暮らしに活かせるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週木曜日に行われるケアカンファレンスでの話し合いをもとに、常に利用者本位の暮らしのあり方を探り、ケアプランに活かせるよう努力している	毎週木曜日にケアカンファレンスを行い、本人本位のあり方の課題とケアについて話し合いを行い、現状に合ったケアプランの作成に努めている。専用のA3のフェイスシートがあり、左側が基本情報、右側が介護計画となっており、変化や修正は赤ペンで直接修正し、次回のケアプランで正式に取り込む体制としている。その方の全ての情報がそのフェイスシートで分かるのでホットなケアの対応が可能である。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った日々の記録、その他日々の暮らしの中での気づき等をケース記録に記載して職員間での情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる（訪問歯科、訪問マッサージなど）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、利用者が活用できるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医の訪問診療と2名の看護師による健康管理を行っている	協力かかりつけ医（新緑ホームケアクリニック）の往診があり、利用者全員が受診している。また、その医院の看護師（2名）と契約し、健康状態の把握・管理、24時間対応体制を確保し、医療の充実と安心を図っている。訪問歯科は利用者個人（家族）が契約し訪問歯科医院（服部歯科、まきおデンタルクリニック）から週1回の往診がある。他科などの通院はご家族対応を原則としている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日ごろの暮らしの中での気づきを大切にして、利用者の体調の変化を速やかに看護師、かかりつけ医へ連絡している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との十分な話し合いを重ねながらより良い途をさぐり、かかりつけ医の協力のもと支援に取り組んできている	重度化や終末期のあり方については入所時に指針を説明し、同意書を頂いている。医療との24時間体制が取れているので、重度化した場合には医師からの指示があり、ご家族、医師、との3者で話し合い、方向性を決め、取り組むようにしている。職員も勉強会で研鑽を図り、マニュアルを整備し、知識を深めるよう努めている。利用者の入所年数が増えるに従い、看取りの件数は増えているので毎年数件ある。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備、日ごろの心構えなど常に学ぶ姿勢を持ってケアにあたっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	春と秋に地域の消防署指導のもと近隣住民と協力して防災訓練を実施している	消防署の指導の下、近隣住民と協力して防災訓練を年2回春と秋に実施している。夜間を想定して訓練も実施する。地域の防災訓練にも参加する。自動火災通報装置、スプリンクラーも設置されている。東日本大震災以降、備蓄等も検討し、水は1人3日分、米、レトルト食品、缶詰など持つようにした。地域には備蓄は無いと聞いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての尊厳を保ち、その人らしく生活していくことができるように、言葉かけは特に大切にしている	年長者としての尊厳を保ち、その人らしく生活していくことができるように、言葉が慣れすぎないように言葉かけは特に大切にしている。基本は「さん」「です。ます。」で話すように指導している。一人ひとり人格を尊重、誇りやプライバシーに配慮している。居室に入室する際は、必ずノックをするようにしている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いにそった支援ができるように、希望が表しやすい言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら本人の持つ力を発揮できるような働きかけへの工夫を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれへの関心を強めてもらえるようにヘアスタイルや服装などへのほめ言葉を惜しまないように心がけている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事をする中で、一つひとつの料理について話したり、好きな食べ物を伺ったりしている	食材はケイズフードにレシピ、カロリー付きで一括依頼している。栄養の偏らない、バランスの良い食事は健康管理の面でも有用である。利用者と共に食事をする中で、一つひとつの料理について話したり、好きな食べ物を伺ったりしている。季節の行事や誕生会の際は、ホーム側で準備したり、毎月の行事に併せて外食したり、お弁当を作ってピクニックに行ったり、食事を楽しむ支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	共に食事をすることによって、水分・食事量の把握をし、好き嫌いに応じた食事への配慮も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握しながら声かけ、トイレ誘導を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェック表を基に把握し、時間を見計らいながら声かけを行い、トイレ誘導を行っている。完全自立が2名、他の方については声かけ対応と介助が半々程度で支援している。夜間はリハパン、パットの併用で対応している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、運動など配慮している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や希望にあわせた入浴を行っている	入浴について、個々の体調や意向を確認しながら、1週間に2～3回、間隔の空いている方から、1日3人の予定で入浴して頂いている。強制はしない方針で対応している。出来る限り同性介助を心がけている。ゆず湯・菖蒲湯等を利用し、季節による工夫をし、お風呂を楽しんで頂いている。日曜日は家族の訪問も多いので、面会時間や湯冷めの問題を考慮して休みにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、屋内歩行、レクリエーション等で日中活動を増やし、夜の睡眠の確保に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、食材準備、洗濯物たたみなどをスタッフと共に行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食器拭き、食材準備、洗濯物たたみなどをスタッフと共に行っている	天気の良い日は出来るだけ、何回かに分けて、近隣の散歩や買い物、喫茶店等へ外出の支援に努めている。送迎付きで美容院へ行く方、ドライブに行く方など、一人ひとりに合わせた支援をしている。1年に1回は、お花見（ピクニック）にも行き、帰りに寿司屋に寄るケースもある。近くの玄海田公園にバーベキューの設備があり、家族づれで行っている。恒例のグループホーム櫛との合同バス旅行（泉の郷仙石原）は、転倒などリスク対応をしっかりと検討して実施する予定である。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域の一員として、また社会生活を楽しめるよう美容院やスーパーへの外出を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の移り変わりを話しながら利用者と共に飾りつけを行ったりして行事などを楽しんでいる	共用の空間、リビングには四季の移り変わりを話しながら利用者と共に飾りつけを行ったりして行事などを楽しんでいる。また、ひな祭りやクリスマスの飾り付け、摘んで来た花を飾ったり、折り紙を飾るなど、利用者が居心地良く過ごせるよう家庭的な雰囲気を大切にしている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくりとくつろいだり、テーブルでパズルや塗り絵をしたり新聞を読んだりそれぞれのペースで過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や趣味の作品などが飾られ、本人が安心して過ごせる場となっている	居室は、これまで使い慣れた馴染みの家具や家族の写真、趣味の作品などを飾り、本人が安心して快適に過ごせるよう配慮されている。各居室には入居者の表示がされ、居室毎に洗面台、エアコン、クローゼット、防災カーテン、スプリンクラー、ナースコールが設備されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有トイレや各居室使用者の表示		

目 標 達 成 計 画

事業所

コスモス長津田

作成日

2012/11/19

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29	利用者ご本人の意向や必要性に応じて、適切な地域資源の活用	地域の民生委員やボランティアさん、消防や警察、教育機関の協力を得ながら利用者一人ひとりが地域資源を活用できるように支援する	現在、2ヶ月に一度開催している運営推進委員会に参加して頂いている民生委員や地域の方々との情報交換を継続すると共に消防や警察、学校など積極的に地域資源を活用していく	12ヶ月
2	13	現員職員の教育については、月1回の事業所内での勉強会を実施しているが、新人への教育体制が不十分と思われる部分がある	新人職員に対して、試用期間も含め、介護職の経験の有無に関わらず一定の新人教育を行える体制を強化する	新人研修マニュアルの見直しと、新人教育について管理者、主任を中心に検討する機会を持つ	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。